

2013年8月20日 281号

共同センターNEWS

憲法改悪反対共同センター

文京区湯島 2-4-4 全労連会館 03-5842-5611 (FAX5842-5620)

<http://www.kyodo-center.jp> mail: move@zenroren.gr.jp

集団的自衛権行使想定での米爆撃機訓練に参加

安倍政権は集団的自衛権の行使に向けて、解釈改憲を進めようとしています。何と航空自衛隊が先取りするかのように、米軍の爆撃訓練に参加していたことが明らかになりました。8月13日の東京新聞は、「空自、米爆撃機訓練に参加」と、米軍の戦略爆撃機B52の爆撃訓練に航空自衛隊が参加していたと報道しました。



航空自衛隊は1996年度から米アラスカ州での米空軍演習に参加しており、航空自衛隊のF15戦闘機は2003年度から派遣されています。東京新聞が入手した航空自衛隊の月間内部誌「飛行と安全」12年7月号に、米空軍の演習「レッド・フラッグ・アラスカ(RFA)」での敵航空基地攻撃訓練中、自衛隊のF15戦闘機がB52による爆撃を想定し、「果敢に先陣をきって経路を啓開し、粘り強く先頭を継続してB52を援護」という隊員の体験記が記載されていたというのです。

B52は航空力や搭載量に優れ、相手国中心部をじゅうたん爆撃するような任務に好適とされています。その米空軍のB52を、日本の航空自衛隊のF15戦闘機が援護したというのです。

日本は専守防衛の国是から戦略爆撃機を持たないとしています。政府は従来、日本の防衛に当たる米艦艇を自衛隊が護衛することは、個別的自衛権の範囲内とする見解を示してきました。しかし、戦略爆撃機の援護は国会で議論されていませんでした。今回のB52を援護したというのは、「専守防衛」という枠を大きく逸脱したものです。東京新聞は「これは集団的自衛権行使を前提にした訓練と考えてよい」との琉球大学の我部政明教授の見解を紹介しています。

集団的自衛権の解釈改憲をすすめようとする一方で、なし崩し的に逸脱した行動が始まっています。

全教

「教育のつどい 2013」

「憲法が生きて輝く教育の実現」について語り合う

名古屋市で開催(8月15~17日)された「教育のつどい」には、のべ6000人の父母・国民、教職員が参加。集会のテーマのひとつには「学び、語ろう、憲法—憲法と子どもの権利条約が生きて輝く教育を」が掲げられ、また開会全体集会の討論の呼びかけでは「憲法を守り、いかすとりくみをすすめ、人が人間として尊重され、生きていくことのできる社会をつくるために語りあうことをまずもって、呼びかけたい」と提案されるなど、憲法が大きく位置付けられた集会でした。

開会全体会では子どもたちも参加した合唱構成「ぞう列車がやってきた」が発表され、分科会やフォーラムでも憲法をいかして子どもと教育を守ることの重要性が語り合われました。

フォーラム「憲法と子どもをめぐる現在と未来」 教育の課題と問題点を憲法の視点で語り合う

初日に開催されたフォーラムのひとつとして「憲法と子どもをめぐる現在と未来」が開催されました。安倍政権の改憲の動きへの危機感もあってか、170名収容の会場は満席で、資料が途中で無くなってしまふほどの盛況でした。青山学院大学の新倉修氏が、自民党改憲草案について「国民の主権者としての権利が奪われることになる」等と、基調報告。その後のシンポジウムでは3人のパネリストが発言。沖縄教職員9条の

会代表世話人の宮城達さんは米軍基地により子どもたちの生命が日常的に脅かされ、学び発達する権利が脅かされていると実態を紹介し、「憲法をいかす道こそ、平和な日本と沖縄をつくるために重要」と報告しました。また、愛知高校生平和ゼミナールの小島史歩さんは友人との平和についての対話を紹介し、「平和のためには憲法が大切だと考える生徒が多い反面、教育の不十分さから、憲法の大切さが伝わらない」「戦争が起こる可能性を無くすため、平和の大切さと憲法を守る意義について語っていきたい」と語りました。さらに、メディア総研の岩崎貞明事務局長は、「憲法問題がテレビで取り上げられる機械は少なく、取り上げ方にも問題があります」と、憲法問題を取り上げたワイドショウを紹介し、マスメディアを批判しました。

それらの発言に6人から質問が出され、パネラーが丁寧に応えました。会場からの発言は6人でした。埼玉から参加した中学校の先生は、「東京や神奈川での歴史教科書をめぐる動きや国民の統制を狙った道徳の教科化は絶対許してはいけません。子どもたちを守る使命は私たちにあります」と発言しました。



ただちに制限撤回を

「はだしのゲン」松江市教委 閲覧制限要請

広島での被爆体験を描いた、漫画「はだしのゲン」(全10巻)が、昨年12月から松江市内の市立小中学校の図書館で子どもたちが自由に見ることができない閉架の状態になっていることがわかり、批判の声が上がっています。

全教「教育のつどい」でも、松江市教育委員会が小中学校の図書館での閲覧や貸し出しの中止要請をしていることが報告されました。

「はだしのゲン」は、昨年12月に亡くなった中沢啓治さんが自身の被爆体験を描いた漫画。ゲンが広島の被爆で家族を亡くしながら、激動の時代を必死に生き抜く姿を描いたものです。映画やアニメにもなり、英語やフランス語などに翻訳され、世界に広がっています。

これを松江市教育委員会は「過激・残虐な描写である」として、昨年12月の校長会で、自由に閲覧できない閉架図書にするよう要請したものです。市の調査では小・中学校の52校中、約8割の図書館で置いています。

なお、同市議会では、昨年8月に「ありもしない日本軍の蛮行が描れており、子どもたちに間違った歴史認識を植え付ける」として作品の撤去を求める陳情が提出され、12月議会では全会一致で不採択

になりました。しかし、一部市議から「不良図書」ととらえ、市教委が適切な処置をすべきだとの意見があり、閲覧制限の指示につながりました。

これに、広島県教職員組合は「国内でも多くの人々に読み継がれ、世界に広がっている。平和学習にも使われている。市教育委員会の良識ある判断を再度求めて行きたい」としており、また日本共産党松江市議団も「自由に閲覧できるように制限を解除すべきだ」と再考を求めるとりくみをすすめると語っています。



お知らせ

「憲法改悪は許さない！」学習・決起集会

講演	「憲法をめぐる情勢とたたかひの展望」	五十嵐 仁氏 (法政大学大原社会問題研究所教授)
日時	9月12日(木) 18:30~20:30	会場 全労連会館2Fホール
主催	憲法改悪反対共同センター	

憲法を学び、生かし、平和な日本と世界を！